

mammary carcinoma. BioMed Res. in press. 2007

【総説】

- 1) 鈴木啓展, 大島勇人, 織田公光, 李 敏啓, 網塚憲生, 吉江弘正, 野田政樹, 前田健康, 小澤英浩:「Klotho 遺伝子欠損が骨の細胞および骨気質に及ぼす影響」. THE BONE グラビア, メディカルレビュー社, 20 (4), 3-7 頁, 2006.

【学会発表】

- 1) 那須真樹子, 石田陽子, 沼奈津子, 織田公光, 野村修一: 低ホスファターゼ症における突然変異型アルカリホスファターゼ R433C の細胞生物学的解析. 第 48 回歯科基礎医学会大会, 鶴見, 2006. 9. 21-23, 抄録集: 138, 2006.
- 2) 五関-曾根 正江, 曾我部 夏子, 織田 公光, 折茂 英生, 細井 孝之: 骨密度と関連する臓器非特異型アルカリホスファターゼ遺伝子多型における酵素化学的性質生合成および三次元モデルの比較. 第 24 回 日本骨代謝学会学術集会, 東京, 2006. 7. 8, プログラム抄録集: 199, 2006.
- 3) 那須真樹子, 石田陽子, 沼奈津子, 織田公光, 野村修一: 突然変異型アルカリホスファターゼ R433C の細胞生物学的解析. 日本補綴歯科学会第 115 回学術大会, 札幌, 2007. 7. 8-9, 日本補綴歯科学会雑誌, 50 (特別号): 168, 2006.
- 4) Ali, M-N, Ejiri, S, Kobayashi T, Oda K, Ohshima H, Saito C.: Histological analysis of a rat model of mandibular distraction osteogenesis. 平成 18 年度新潟歯学会第 2 回例会, 新潟, 2006.11.11, 新潟歯学会誌: 315, 2006.
- 5) 那須真樹子, 石田陽子, 沼奈津子, 野村修一, 織田公光: ジスルフィド結合で架橋された組織非特異型アルカリホスファターゼ R433C の解析. 平成 18 年度新潟歯学会第 2 回例会, 新潟, 2006.11.11, 新潟歯学会誌: 316, 2006.
- 6) 広瀬 聡, 李 敏啓, 坂上直子, 小島 拓, 織田公光, 網塚憲生, 齊藤 力: 骨リモデリングと骨細胞・骨細管系の再構築に関する形態学的検索, 平成 18 年度新潟歯学会第 2 回例会, 新潟, 2006.11.11, 新潟歯学会誌: 318, 2006.
- 7) 坂上直子, 李 敏啓, Ubaidus Sobhan, Paulo Henrique, 小島 拓, 織田公光, 小澤英浩, 網塚憲生: カップリングとリモデリングのどちらが骨細胞・骨細管系の構築を規定するか, 平成 18 年度新潟歯学会第 2 回例会, 新潟, 2006. 11.11, 新潟歯学会: 319, 2006.
- 8) 水野 敏, 山田昭司, 大家正康, 後藤 淳: イマー

ジングプレート (IP) を使用した外部放射線の測定の可能性. 第 43 回アイソトープ・放射線研究会, 東京, 2006. 7. 5-7, 放射線研究会発表要旨集: 47, 2006.

- 9) 水野 敏, 織田公光, 天谷吉弘, 後藤淳: 自然計数・計数効率 - 初めて取り扱う放射同位元素 (RI) を安全に使用するために. 第 43 回アイソトープ・放射線研究会, 東京, 2006. 7. 5-7, 放射線研究会発表要旨集: 147, 2006.

口腔生理学分野

【論文】

- 1) Miyaoka Y, Haishima K, Takagi M, Haishima H, Asari J, Yamada Y: Influences of thermal and gustatory characteristics on sensory and motor aspects of swallowing. *Dysphagia*, 21: 38-48, 2006.
- 2) Yamada M, Koga Y, Okayasu I, Sanefuji K, Yamada Y, Oi K, Yoshida N: Influence of soft diet feeding on development of masticatory function. *J Jpn Soc Stomatognath Funct*, 12: 118-125, 2006.
- 3) Sugita K, Inoue M, Taniguchi H, Ootaki S, Igarashi A, Yamada Y: Effects of Food Consistency on Tongue Pressure during Swallowing. *J Oral Biosci*, 48: 278-285, 2006.
- 4) Okada A, Honma M, Nomura S, Yamada Y: Oral behavior from food intake until terminal swallow. *Physiol Behav*, 90: 172-9, 2006.
- 5) Kijima H, Shingai T, Takahashi Y, Kajii Y, Fukushima S, Taguchi Y, Noda T, Yamada Y: Nitric oxide modulates elicitation of reflex swallowing from the pharynx in rats. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*, 291: 651-6, 2006.
- 6) Yamamura K: Mastication-induced modulation of orofacial sensory inputs as seen in the jaw reflex and single neuronal activities in the primary face somatosensory cortex. *Arch. Oral Biol*, 52:329-33, 2006.
- 7) Hayashi Y, Kobayashi H, Yamada Y, Miyakawa O, Tujimoto K: Effects of Heat Treatment on Fatigue Strength of Occlusal Rests Cast with Ag-Pd-Cu-Au Alloy. *Prosthodont Res Pract*, 5: 195-202, 2006.
- 8) 山田好秋: 嚥下の神経生理学. 日摂食嚥下リハ会誌, 10: 3-11, 2006.
- 9) 齊藤米蔵, 平野秀利, 黒瀬雅之, 山田好秋: 電子式 Goniometer を用いた頭部屈曲・回転運動時の関

- 節可動域の解析と運動軌跡の観察. 顎機能誌, 13: 21-30, 2006.
- 10) 小野和宏, 大内章嗣, 魚島勝美, 林孝文, 西山秀昌, 安島久雄, 小林正治, 瀬尾憲司, 齋藤功, 程君, 山田好秋, 前田健康: 歯科医学教育へのPBLテュートリアル導入 - 新潟大学歯学部の試み -. 日歯教誌, 22: 58-71, 2006.
- 11) 五十嵐敦子, 渡部守, 中野美智江, 伊藤加代子, 船山さおり, 人見康正, 山田好秋: 味覚障害患者(自発性異常味覚)の唾液の味について - 味覚センサーによる検討 -. 味と匂誌, 13: 175-180, 2006.
- 12) 新井映子, 山村千絵, 江川広子, 城斗志夫, 島田久寛, 山田好秋: クッキーの咀嚼・嚥下特性に与えるグルテン構成たんぱく質組成の影響. 日摂食嚥下リハ会誌, 10:142-151, 2006.
- 13) 高橋肇, 伊藤彰, 江川広子, 渡辺紀之, 井上誠, 新井映子, 山田好秋: 高齢者向け米菓の研究. 日咀嚼誌, 16: 70-82, 2006.
- 14) 大久保義信, 平野秀利, 山田好秋: 電子式関節可動域計測装置の要介護度評価への応用. 新潟歯学会誌, 36: 17-24, 2006.
- 15) 江川広子, 別府茂, 山村千絵, 黒瀬雅之, 八木稔, 山田好秋: 介護食の提供実態調査について - 新潟市の介護保険施設入所者の場合 -. 日咀嚼誌, 2007, 印刷中.

【著書】

- 1) 山村千絵: 言語聴覚士のための基礎知識(夏目長門編). 臨床歯科医学, 口腔外科学. 248-255頁, 医学書院, 東京, 2006.
- 2) 山田好秋: 口から食べるということはなぜ大切なのか(藤島一郎, 藤谷順子編). ポケットガイド 嚥下リハビリテーションと口腔ケア. 2-10頁, メヂカルフレンド社, 東京, 2006.
- 3) 山田好秋: 咀嚼の本 - 噛んで食べることの大切さ -. 財団法人口腔保健協会, 東京, 2006.
- 4) 山田好秋: 口腔生理学概説 - 生体の仕組みと働き -. 学建書院, 東京, 2007.
- 5) 山村健介: ストレス食いはなぜ悪いのですか?, なぜ食べなくなるのですか?. 咀嚼の本 - 噛んで食べることの大切さ -. 106-107頁, 154-155頁, 財団法人口腔保健協会, 東京, 2006.

【商業誌】

- 1) 山田好秋: 口腔機能概論(咀嚼・嚥下). 食品加工技術, 26(4):16-24頁, 2006.

【研究成果報告書】

- 1) 山田好秋, 山村健介, 井上誠, 阿部伸一, 渡邊裕: 嚥下障害解明に向けた基礎的研究: 嚥下誘発における上位脳の役割 日本学術振興会科学研究費補助金研究, 基盤研究(A) 課題番号14207077, 2006.

【講演・シンポジウム】

- 1) Yamamura K: Mastication-induced modulation of orofacial sensory inputs as seen in the jaw reflex and single neuronal responses in the primary face somatosensory cortex. International mastication symposium, Brisbane, 2006. 6. 26-27.
- 2) 山田好秋: 補綴歯科は嚥下障害にどう関わるか?. 日本補綴歯科学会 第115回学術大会, 札幌, 2006. 7. 8.
- 3) Yamada Y (Organizer): Mechanisms of mastication and swallowing: Kinesiological and neurophysiological approaches. The 84th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan, Osaka, 2007. 3. 20.

【学会発表】

- 1) Mostafeezur R, Yamamura K, Inoue M, Kurose M, Yamada Y: Modulation of the jaw-opening reflex during mastication in awake rabbits. International mastication symposium, Brisbane, 2006. 6. 26-27.
- 2) Tsurui C, Arai Y, Inoue M, Taniguchi H, Ootaki S, Yamada Y: Coordination of jaw and neck movements during rhythmic jaw movements. International mastication symposium, Brisbane, 2006. 6. 26-27.
- 3) Hayashi T, Nakamura Y, Nakajima S, Kobayashi H, Yamada Y: Robotized jaw movement simulator JSN/2C aimed at simulating autonomous chewing movement. 5th World Congress of Biomechanics, Munich, 2006. 7. 29-8. 4.
- 4) Taniguchi H, Inoue M, Ootaki S, Yamamura K, Yamada Y: Effects of food consistency and body posture on oropharyngeal swallowing function. 84th IADR, Brisbane, 2006. 6. 28.
- 5) Yamamoto, S, Inoue M, Yamamura K, Yamada Y: Changes in jaw opening reflex responses during mastication and swallowing. 84th IADR, Brisbane, 2006. 6. 28.
- 6) Mostafeezur R, 山村健介, 井上誠, 黒瀬雅之, 山田好秋: Pattern of modulation of the jaw-opening reflex during mastication. 第83回日本生理学会大会, 前橋 群馬, 2006. 3. 29, 第83回日本生理学会

- 大会プログラム・予稿集 : 166, 2006.
- 7) 敦井智賀子, 荒井良明, 井上誠, 谷口裕重, 山田好秋 : 下顎運動時の頭頸部協調運動の筋電図学的検討. 日本顎口腔機能学会第 36 回学術大会, 鹿児島, 2006. 4. 15, 顎機能誌, 13 : 40-41, 2006.
 - 8) 谷口裕重, 井上誠, 山田好秋 : 食品物性および姿勢が嚥下運動に与える影響. 平成 18 年度新潟歯学会総会, 新潟, 2006. 4. 22, 新潟歯学会誌, 36 : 112, 2006.
 - 9) 五十嵐敦子, 渡部守, 伊藤加代子, 船山さおり, 人見康正, 山田好秋 : 味覚障害患者の臨床統計的観察. 第 17 回日本老年歯科医学会, 西原 沖繩, 2006. 6. 1, 老年歯科医学, 21 : 260, 2006.
 - 10) 山下庸, 井上誠, 大瀧祥子, 谷口裕重, 山田好秋 : 嚥下食品の官能評価. 平成 18 年度新潟歯学会第 1 回例会, 新潟, 2006. 7. 8, 新潟歯学会誌, 36 : 114, 2006.
 - 11) 平野秀利, 山田好秋 : 関節可動域計測記録システムの構築. 平成 18 年度新潟歯学会第 1 回例会, 新潟, 2006. 7. 8, 新潟歯学会誌, 36 : 294, 2006.
 - 12) 井上誠, 大瀧祥子, 山下庸, 船山さおり, 谷口裕重, 柴田佐都子, 人見康正, 山田好秋 : 新潟大学医歯学総合病院摂食・嚥下リハビリテーション室開設と現況. 平成 18 年度新潟歯学会第 1 回例会, 新潟, 2006. 7. 8, 新潟歯学会誌, 36 : 296, 2006.
 - 13) 島田久寛, 井上誠, 山田好秋 : 粉碎を伴わずに形成される疑似食塊物性と嚥下閾値の検討. 第 12 回摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 倉敷, 2006. 9. 8-9, 倉敷, 第 12 回摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会プログラム・予稿集 : 144, 2006.
 - 14) 渡邊裕, 河合毅師, 花上伸明, 山根源之, 阿部伸一, 山田好秋 : 視覚・聴覚刺激を用いた嚥下運動誘発に関する研究. 第 12 回摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 倉敷, 2006. 9. 8-9, 第 12 回摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会プログラム・予稿集 : 175, 2006.
 - 15) 谷口裕重, 井上誠, 大瀧祥子, 山田好秋, 小澤鉄太郎 : 筋萎縮性側索硬化症における咽頭嚥下時の食塊の流れ. 第 12 回摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 倉敷, 2006. 9. 8-9, 第 12 回摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会プログラム・予稿集 : 203, 2006.
 - 16) 大瀧祥子, 谷口裕重, 井上誠, 山田好秋, 小澤鉄太郎 : 多系統萎縮症患者の摂食・嚥下機能障害の特徴 - 嚥下造影検査の解析から -. 第 12 回摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 倉敷, 2006. 9. 8-9, 第 12 回摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会プログラム・予稿集 : 305, 2006.
 - 17) 江川広子, 別府茂, 山田好秋 : 介護食の提供実態調査について - 新潟市の介護保険施設入所者の場合 -. 第 12 回摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 倉敷, 2006. 9. 8-9, 第 12 回摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会プログラム・予稿集 : 316, 2006.
 - 18) 金山隼人, 増田裕次, 加藤隆史, 新井嘉則, 山村健介, 栗原三郎, 山田好秋, 森本俊文 : 咬合挙上モットにおける咀嚼中の顎運動および咀嚼筋活動. 第 48 回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 横浜, 2006. 9. 22, 第 48 回歯科基礎医学会学術大会並びに総会プログラム・予稿集 : 108, 2006.
 - 19) 黒瀬雅之, 山村健介, Mostafeezur R, 井上誠, 吉田教明, 前田健康, 山田好秋 : 自由行動下マウスを用いた咀嚼運動の解析. 第 48 回 歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 横浜, 2006. 9. 22, 第 48 回歯科基礎医学会学術大会並びに総会プログラム・予稿集 : 135, 2006.
 - 20) 加藤隆史, 増田裕次, 金山隼人, 藤本正一郎, 磯貝文彦, 山田好秋, 森本俊文 : モット中の睡眠中に発生した咬筋の活動様式. 第 48 回 歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 横浜, 2006. 9. 22, 第 48 回歯科基礎医学会学術大会並びに総会プログラム・予稿集 : 188, 2006.
 - 21) 林頼雄, 小林博, 宮川修, 山田好秋, 辻本和雄 : 熱処理による金銀パラジウム合金鑄造咬合面レストの疲労強度の改善. 日本補綴歯科学会 関越支部 平成 18 年度総会ならびに学術大会, 新潟, 2006. 10. 21. 日本補綴歯科学会 関越支部 平成 18 年度総会ならびに学術大会プログラム・抄録集 : 8, 2006.
 - 22) 黒瀬雅之, 山村健介, Zakir H, 山田好秋 : 自由行動下マウスにおける咀嚼運動時の筋活動様式の検討. 第 17 回日本咀嚼学会学術大会, 横浜, 2006. 10. 28, 日咀嚼誌, 16: 125-126, 2006.
 - 23) 井上誠, 大瀧祥子, 山下庸, 船山さおり, 谷口裕重, 柴田佐都子, 人見康正, 田巻元子, 山田好秋 : 新潟大学医歯学総合病院摂食・嚥下リハビリテーション室の現況 2. 平成 18 年度新潟歯学会第 2 回例会, 新潟, 2006. 11. 11, 平成 18 年新潟歯学会第 2 回例会プログラム, 25, 2006.
 - 24) 高橋肇, 伊藤彰, 江川広子, 渡辺紀之, 井上誠, 新井映子, 山田好秋 : 高齢者向け米菓の研究. 平成 18 年度新潟歯学会第 2 回例会, 新潟, 2006. 11. 11, 平成 18 年新潟歯学会第 2 回例会プログラム : 26, 2006.
 - 25) 熊坂隆行, 山田好秋 : 動物とのふれあいによる心に問題を抱える患者の気分の変化. 平成 18 年度新潟

- 歯学会第2回例会, 新潟, 2006. 11. 11, 平成18年新潟歯学会第2回例会プログラム: 29, 2006.
- 26) 黒瀬直子, 黒瀬雅之, 山村健介, 平野秀利, 井上誠, 山田好秋: 自由行動下マウスを用いた咀嚼運動様式の検討. 平成18年度新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2006. 11. 11, 平成18年新潟歯学会第2回例会プログラム: 26, 2006.
- 27) 大久保義信, 平野秀利, 山田好秋: 電子式関節可動域計測装置の要介護度評価への応用. 平成18年度新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2006. 11. 11, 平成18年新潟歯学会第2回例会プログラム: 27, 2006.
- 28) 谷口裕重, 大瀧祥子, 井上誠, 山田好秋: 神経難病患者における嚥下時の食塊動態について. 平成18年度新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2006. 11. 11, 平成18年新潟歯学会第2回例会プログラム: 31, 2006.
- 29) 林頼雄, 小林博, 宮川修, 山田好秋, 辻本和雄: 金銀パラジウム合金鑄造レストの表面処理が疲労強度に与える影響. 平成18年度日本補綴歯科学会 東関東支部総会・第10回学術大会, 埼玉, 2007. 2. 25, 平成18年度日本補綴歯科学会 東関東支部総会・第10回学術大会プログラム・抄録集: 16, 2007.

【研究会発表】

- 1) 山田好秋: 「咬合・咀嚼が創る健康長寿」「摂食・嚥下の制御機構」, 千里有床義歯臨床研究会, 大阪, 2006. 5. 27.
- 2) 黒瀬雅之, 山村健介, Mostafeezur R, Zakir H, 井上誠, 山田好秋: 遺伝子改変マウスに応用可能な咀嚼運動様式の基礎データの収集. 第1回三叉神経領域の感覚-運動統合機構研究会, 松本, 2007. 1. 29.

【その他】

- 1) 山田好秋: 噛んで食べていきいき元気 - 咀嚼と咬合が創る健康長寿 - 噛んで食べる体の仕組み. 日本歯科大学創立100周年記念市民健康公開フォーラム, 東京, 2006. 2. 2.
- 2) 山田好秋, 井上誠: 嚥下障害に対する食品開発の可能性. アグリビジネス創出フェア, 東京, 2006. 10. 25-26.
- 3) 山田好秋: いつまでも健康でおいしく食べよう - 摂食・嚥下障害への取り組み -. 研究成果等普及啓発事業発表会(長寿科学総合研究), だいしホール, 2006. 11. 4.

口腔病理学分野

【著書】

- 1) Saku T, et al: Oral CIS (JSOP) Catalog:

histopathological variations. A 2005-2007 Effort Report of the Working Committee on New Histopathological Criteria for Borderline Malignancies of the Oral Mucosa, the Japanese Society for Oral Pathology. p 1-91. Sunashobo Publishing Co. Ltd. Tokyo, 2007.

【論文】

- 1) Tilakaratne WM, Klinikowski MF, Saku T, Peters TJ, Warnakulasuriya S: Oral submucous fibrosis: review on aetiology and pathogenesis. *Oral Oncology*, 42: 561-568, 2006.
- 2) Ida-Yonemochi H, Saku T: Perlecan, a heparan sulfate proteoglycan, is a major constituent of the intraepithelial stroma functioning in tooth morphogenesis. *Journal of Oral Biosciences*, 48: 233-243, 2006.
- 3) Kundu S, Cheng J, Maruyama S, Suzuki M, Kawashima H, Saku T: Lymphatic involvement in the histopathogenesis of mucous retention cyst. *Pathology Research and Practice*, 203: 89-97, 2007.
- 4) Sawair F, Al-Mutwake A, Al-Eryani K, Al-Surhy A, Maruyama S, Cheng J, Al-Sharabi A, Saku T: High relative frequency of oral squamous cell carcinoma in Yemen: Qat and tobacco chewing as its aetiological background. *International Journal of Environmental Health Research*, 2007.
- 5) Hara H, Oyama T, Saku T: Fine needle aspiration cytology of basal cell adenoma of the salivary gland. *Acta Cytologica*, 2007.
- 6) 朔 敬: 口腔. 病理と臨床, 24(S): 14-23, 2006.
- 7) 池田順行, 星名秀行, 齋藤正直, 飯田明彦, 高木律男, 林 孝文, 宇都宮宏子, 朔 敬: 舌顆粒細胞腫の1例と本邦報告97例の臨床病理学的解析. *新潟歯学会雑誌*, 36: 49-53, 2006.
- 8) 丸山 智, 中里隆之, 小山純市, 鈴木 誠: 上顎悪性神経鞘腫. *新潟歯学会雑誌*, 36: 239-242, 2006.
- 9) 勝見祐二, 飯田明彦, 池田順行, 小林孝憲, 朔 敬, 高木律男: 先天性ガマ腫の1例. *日本口腔外科学会雑誌*, 52: 453-456, 2006.

【研究成果報告書】

- 1) 丸山 智: 平成18年度 新潟大学プロジェクト推進経費研究成果報告書: 唾液腺癌の転移能を規定する機能分子発現様式. 2007年3月.
- 2) 依田浩子: 平成18年度 新潟大学プロジェクト推進経費研究成果報告書: 皮膚・口腔粘膜付属器発